関まちなみ資料館

この資料館には、19 世紀後半に建てられた家屋を修復した建物が使われています。建物は、関宿が保存地区に指定された翌年の 1985 年に取得され、3 年間の修復事業を経て、1988 年に資料館としてオープンしました。関まちなみ資料館は、当時の関宿の典型的な家屋がどのようなものであったかを学べるようにつくられています。

この家屋の間取りは、関宿の商家の住宅としては標準的なものです。家の東側には、長い土間が表から裏まで続いており、土間より高い座敷の部屋はすべて西側にあります。母屋の間口は 4 間（7.2m）なのに対して、奥行きは 9 間（16.2m）と、幅より奥行きがずっと大きくなっています。玄関と内部の戸には、「くぐり戸」と呼ばれる小さめのくぐって通る戸がついています。

家の前にも後ろにもガラス窓はついていません；風雨を防ぐのは、「しとみど」と呼ばれる折りたたみ式のシャッターのみでした。一階の手前の部屋には、江戸時代（1603-1867）と明治時代（1868-1912）の商店や家屋で使われていた品物が展示されており、その中には鍵のかかる出納箱や、漢方薬を入れる大きな箆筒、箱階段などがあります。中央の部屋の展示品は、この町の保存地区認定についての公的な証明書などが中心です。一番奥の応接間は、美術品を飾る床の間や違棚などが備えられており、格式を感じさせます。

二階の正面側にある、家主/商人が商談に使ったと思われる天井の低い二部屋も見学可能です。これらの部屋では、虫籠窓から通りを眺めることができるほか、キャビネットには近くの百六里庭が建設された際に掘り出された江戸時代の貨幣や陶器が展示されています。

建物の裏手には、漆喰で塗られた分厚い土壁の蔵があります。ここに展示されている 1761 年に作成された公式の町の地図には、個々の家の大きさや住人の名前が記録されています。蔵の上階には、関宿の大通りの両側の全家屋を、それぞれ 1884 年（保存事業が開始された年）、1997 年、2007 年に撮影した写真が展示されています。平行に並べられたこれらの写真は、過去 40 年間の繊細な修復作業によって町の外観がいかに改善されたかを示しています。

建物の裏側を覆っている檜の皮も、珍しい建築例のひとつです。建物の中に入って上を見上げると、土間の通路の上部に広い屋根裏のスペース（つし）が見えます。ここは倉庫として使われていたか、あるいは蚕の養殖に使われていた可能性もあります。

関まちなみ資料館の開館時間は、火曜から日曜の午前 9 時から午後 4 時 30 分までです。関まちなみ博物館、関宿旅籠玉屋歴史資料館、関の山車会館の 3 館共通入館券を購入すると割引が適用されます。